

大学名：北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター

ASPUnivNet の 4 つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します（加盟に関する相談も含む）	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	随時、対応している。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	現在、対応中である。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	加盟済の幼小中高の各学校に対して、新型コロナウイルスの 5 類移行後の実践再対応や新規対応への支援を行っている。学校によっては、新型コロナウイルス対策期間中の人事異動により実践や連携の修正を余儀なくされている場面も見受けられ、教員や地域の実情に合わせた対応を行っている。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援（資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど）を行うことができた。	大学の学校林や農場を開放し、ユネスコスクール登録の幼稚園と連携した支援を行っている。食育や食農教育を土台とした実践支援における技術支援や作付体系上の支援を行っている。また、羅臼町のユネスコスクールに対して、出前授業などを行っている。北海道教育大学釧路義務教育学校においても、津波対応の出前授業などを展開している。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	北海道ユネスコ連絡協議会と連携し、全道のユネスコスクールを対象として、11 月 18 日に、北海道教育大学札幌駅前サテライトにおいて研修会を実施した。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	羅臼町のユネスコスクール加盟校と釧路校の授業開発研究室において、地域資源を活用した教材開発と出前授業を行っている。
3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ニーズがなかった。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	釧路市内のユネスコスクールでは、地域と連携し、多様な実践を展開できるよう支援している。

	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	ユネスコスクールチャレンジ校と、その教育委員会に対して釧路校 ESD 推進センターと連携して、多様な実践展開を模索した。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	ニーズがなかった。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	ニーズがなかった。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。(例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など)	ニーズがなかった。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	「ESD 実践論」や教科関連科目において、ユネスコスクールや登録校の特色ある実践を紹介しながら、意義を説明している。
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	教職大学院において「子どもと社会」にて、ユネスコスクール実践として食育・食農教育の展開可能性について、講義を実施した。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	ニーズがなかった。
	④ その他	
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	ニーズがなかった。

	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	ニーズがなかった。
	③ その他	